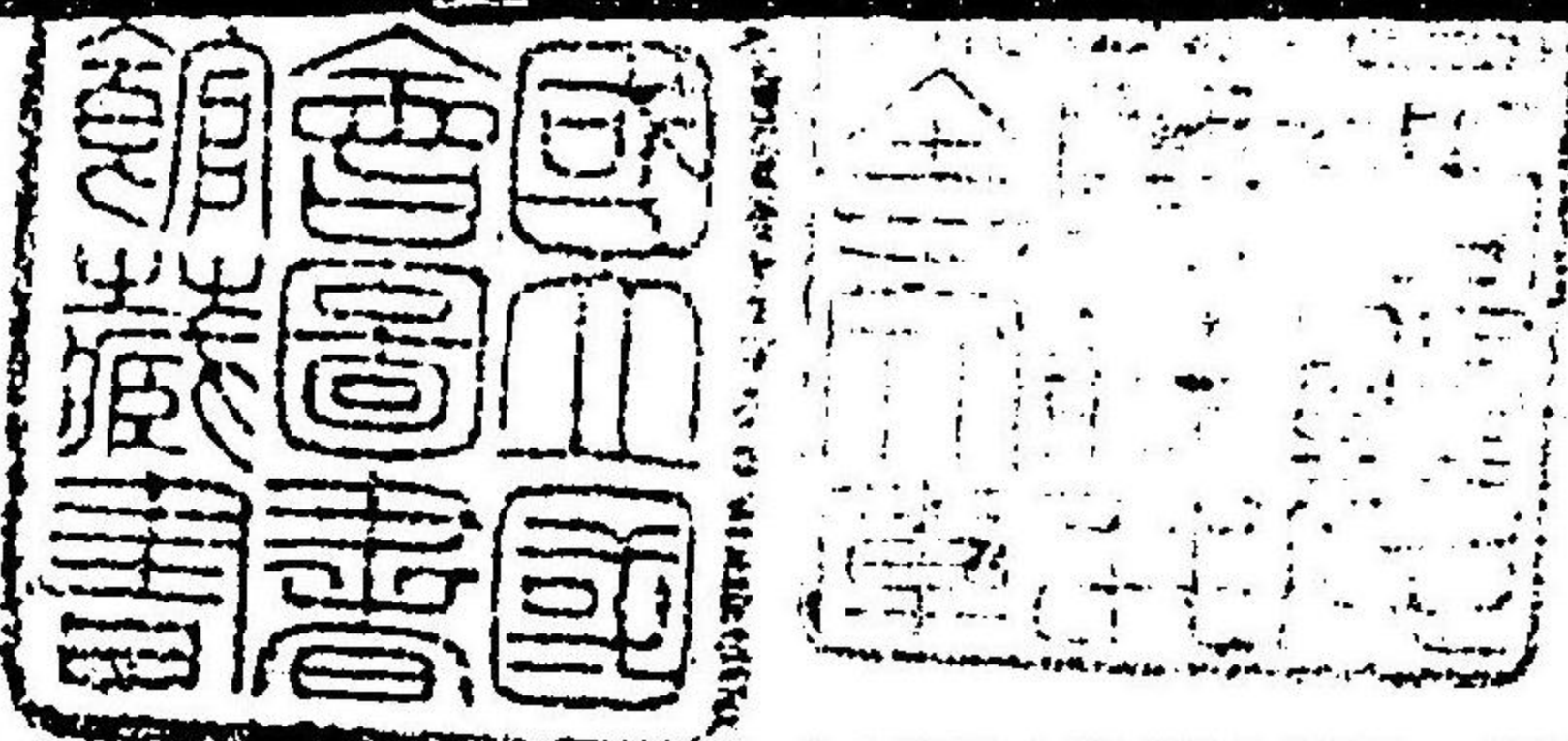


三
子
孫
之
家

911.123
Ka.3/67.2
④



216451

Handwritten text in cursive Japanese script, written vertically from right to left. The text is contained within a rectangular border. At the bottom right of the text area, there is a small square stamp with the characters '国会図書館蔵書'.

万葉集卷五之考
 今本より正述心緒で入標あり
 除くことわりの考あり
 吾待君より一月の考あり
 昨夜更深去者嘆鶴鴨
 玉釧 卷宿妹母有者許増
 一夜の考あり
 人妻爾言者誰事
 者孰言

今本より正述心緒で入標あり
 除くことわりの考あり
 吾待君より一月の考あり
 昨夜更深去者嘆鶴鴨
 玉釧 卷宿妹母有者許増
 一夜の考あり
 人妻爾言者誰事
 者孰言

万葉集卷五之考
 古今相聞哥下
 今本より正述心緒で入標あり
 除くことわりの考あり
 吾待君より一月の考あり
 昨夜更深去者嘆鶴鴨
 玉釧 卷宿妹母有者許増
 一夜の考あり
 人妻爾言者誰事
 者孰言

万葉集卷五之考

古今相聞哥下

今本より正述心緒で入標あり
除くことわりの考あり

吾背子乎且今且今跡
吾待君より一月の考あり
 待居

尔夜更深去者嘆鶴鴨

玉釧 卷宿妹母有者許増
玉釧 卷宿妹母有者許増
 夜之長毛歡有倍言

一夜の考あり

人妻爾言者誰事
他妻の音より人違
 昨夜乃言者此紐解跡言

者孰言

今本より正述心緒で入標あり
 除くことわりの考あり
 吾待君より一月の考あり
 昨夜更深去者嘆鶴鴨
 玉釧 卷宿妹母有者許増
 一夜の考あり
 人妻爾言者誰事
 者孰言

如是許將戀物其跡知者其夜者由多尔（夜ハ）有益物乎。

戀乍毛後將相跡思許增（おまのオカ）已命乎長欲為禮。

今者吾者將死與吾妹不相而念渡者安毛無（トの十一）

（トの十一）

我背子之將來跡語之夜者過去（既）思咲ハ更

更思許理來目ハ面（既）待（今）常云吾妹

人言之讒乎聞而玉梓之道毛不相（跡）常云吾妹

（ト）

（ト）

不相毛解常念者（是）彌益二人言繁所聞來可聞。

里人毛謂告我補（我）都我絲（後）語（金）

縱咲也思憲而毛將死誰名將有哉（我）

（蓋）蓋雲吾意死者誰名將有哉

慥使乎無跡情乎曾使爾遣之夢所見哉

天地尔少不至丈夫跡（天）思之吾耶雄心

毛無寸

里近家哉應居

此吾目之人目毛里乍（今）

あふらや。 戀繁口。

何時奈毛不意有登者雖不有得田互比来

意之繁母

黒玉之宿而之晚乃

物念爾割西胸者息時裳無

三空去名之惜毛

吾者無不相數多年之經者

得管二毛

宿登見者辛苦毛

或本僕句云吾妹
見事...
よ二つめらそのふち
よのふの義之の條

立而居為便乃田時毛今者無君之目不見而月之經去

者

不相而意度等母忘哉彌日異者思益等母

外目毛君之光儀乎見而者社

見社鹿

吾意山目命不死者

曾命對吾意止目

意管母今日者在目杼玉匣將開明日如何將暮

意管母今日者在目杼玉匣將開明日如何將暮

注云壽向吾
意止目
俗語入と意たか

左夜深而妹乎念出布妙之枕毛衣世二。上。嘆鶴鴨。
他言者真言痛成友彼所將障吾甬不有國。

立居田時毛不知吾意天津空有土者踐鞠。

世間之人辭常所念莫真曾憲之。不相日乎多美。

乞如何吾幾許憲流吾妹子之不相跡言流事毛有莫國。

夜于玉之夜乎長鴨吾背子之夢爾夢西所見還良武。

荒玉之年緒長如此憲者信吾命全有目八目。

思遣為便乃田時毛吾者無不相數多月之經去者。

考の所よを
トーレト。

朝去而暮者來座君故爾忌忌久毛吾者歎鶴鴨。

從聞物乎念者我胸者破而摧而鋒心無。

人言乎繁三言痛三我妹子二去月從未相可母。

歌方毛。此の清水の上はほほの。空像て。言も。事。冠。解。考。の。水。乃。

曰管毛有鹿吾有者地庭不落空消共。

修むわ。○妹ハ未あやげよ。吾ん。く。有。ハ。打。控。る。る。ハ。セ。レ。今。ハ。ま。り。も。
と。の。托。言。ち。る。べ。ー。ト。の。二。言。ハ。未。ハ。今。の。ご。ん。を。あ。ら。わ。く。ま。づ。咲。花。乃。
土。よ。お。ら。ん。も。零。雪。の。虚。空。可。消。雖。恋。お。よ。ろ。く。月。ぞ。る。る。ま。り。も。
や。ま。り。も。思。ひ。よ。ろ。く。ま。づ。咲。花。乃。且。け。言。ハ。消。る。ま。り。も。
よ。も。ち。入。る。ま。り。も。あ。ら。わ。く。ま。づ。咲。花。乃。
り。の。ま。り。も。あ。ら。わ。く。ま。づ。咲。花。乃。

何日之時可毛吾妹子之裳引之容儀朝尔食尔将見朝。

日をしい食い
半をいつか。

獨居而意者辛苦。玉手次不懸將忘言量欲。カケテワスレム。コトバカリモ。人さうてんようけ

るの思ひ許もあれいと思ふ
ちん次の枚も思ふもあつち。

中、點然毛有申尾小豆無相見始而毛吾者意香。カッモ。アライミシヲ。アチキナク。

吾妹子之咲眉引面影懸而本名所念可毛。オモエヨビキ

赤根指日之暮去者為便乎無三千遍嘆而。チナヒ 意乍

曾居。

吾意者夜晝不別百重成情之念者甚為便無。オス。ニン。ン。モ。ハ。バ。イ。ト。モ

五十殿寸氏イ。ト。シ。ヒ。テ。今。不。ハ。氏。ウ。ス。キ 薄寸眉根乎。或人いと除くことと云ふもあつち

あつちかちん
思ふ本ハいの
きんきんきん
きんきんきん

一、同じくも思ふ。梓乃、同教使は志伎の界より。使を久よ梓にてい
べ。氏ハ梓。卷九。あつち。せろ。本都のト子。あつち。伊等能伎提。うろ。けせろ。あ
え。守も。卷九。伊等乃伎提。短物の端。徒令搔管。不相人可母。今、か、管
きんきんきん。あつち。の二つのきんきんきん。の、あつち、
もの、あつち、を、ほ、ら、あつち、の、あつち、つ、と、よ、ら、
あつち、の、界、よ、り、ほ、ら、あつち、の、毛、を、ほ、ら、あつち。

意々而後裳将相常名草漏心四無者五十寸手有目八
面。

幾不生有命乎。意管曾吾者氣衝人尔不所知。イ。キ。ツ。ツ。デ。思。入。も、あ、つ、ち、
イ。キ。ツ。ツ。デ。思。入。も、あ、つ、ち、
イ。キ。ツ。ツ。デ。思。入。も、あ、つ、ち、

他國尔ヒ。ト。ク。ニ。ニ。國。を、へ、て、き、
ヒ。ト。ク。ニ。ニ。國。を、へ、て、き、 結婚尔行而。ヨ。バ。ヒ。ニ。キ。テ。記。一。八。千。手。神。云。仁。德。天。皇。と。備
ハ。幸。あ、つ、ち、時、黒。姫。が、こ、も、カ、ツ。の、下。用。波、

開つ。行。つ。ま。よ。り。太刀之緒毛未解者。タ。チ。ガ。後、い、い、う、ぬ、い、い、わ、秋、立
言の妻も上よいんわ。

左夜曾明家流。右同記。八千手神將。高師國之沼河北賣。幸行之時
到其奴河北賣之家。歌曰。云。登々富々斯故志之久迹

迹云。依用婆比迹阿理多々斯用婆比迹阿理如用波勢婆多知賀遠母。伊麻陀登加受且游須比遠母伊麻陀登加泥婆。

丈夫之聰神毛。サトココロモ。今者無意之。

奴尔吾者可死。コノ意ニ使ウ奴ノ即キ...

常如是意者辛苦暫毛。心安目六事許為與。

凡尔吾之念者。人妻爾有云妹爾意管有米也。

心者千重百重。思有杼人目乎多見妹爾不相可母。

人目多見眼社忍禮小毛。心中爾吾念莫國。

人見而事害目不為。夢爾吾今夜将至屋戸閉勿勤。

何時左右二。將生命曾。凡者意乍不有者。死上。

有。

愛等。念吾妹乎。夢見而起而探爾。無之不怜。

妹登曰者。無礼恐。然為蟹。懸卷。

欲。妹。言爾有鵝。

玉勝間。相登云者。誰有香相。有時左倍面隱為。

寤香。妹之來座有夢可毛。吾香惑流。意之繁爾。

ウツニカ。ニセル。イメニ。三。

伊麻陀登加受且游須比遠母伊麻陀登加泥婆。今者無意之。丈夫之聰神毛。奴尔吾者可死。常如是意者辛苦暫毛。心安目六事許為與。凡尔吾之念者。人妻爾有云妹爾意管有米也。心者千重百重。思有杼人目乎多見妹爾不相可母。人目多見眼社忍禮小毛。心中爾吾念莫國。人見而事害目不為。夢爾吾今夜将至屋戸閉勿勤。何時左右二。將生命曾。凡者意乍不有者。死上。有。愛等。念吾妹乎。夢見而起而探爾。無之不怜。妹登曰者。無礼恐。然為蟹。懸卷。欲。妹。言爾有鵝。玉勝間。相登云者。誰有香相。有時左倍面隱為。寤香。妹之來座有夢可毛。吾香惑流。意之繁爾。

大方者何鴨將憲言奉不為一。妹爾依宿年者近緩

今本侵し... 一本... 妹が

二為而結之紐乎一為而吾者解不見直相及者

終命此者不念唯毛妹爾不相言乎之曾念言ハ事のウチ

幼婦者同情須臾止時毛無久將見等曾念

夕去者於君將相跡念許憎日之晚毛娛有家禮

直今日毛君爾波相目跡人言乎繁不相而憲度鴨

世間尔憲將繁跡今本... 二句... 如是許將憲物衣常... 志同

不念者君之手本乎不枕夜毛有寸

綠兒之為社乳母者今本社を社に誤りて即モトハハを求云乳飲

哉君之於毛求覽上の乳母ハ知毛も例ベクハ同ト下ニ於毛は依上ノ於毛ト例ハ訓ト意をち...

悔毛老尔来鴨我背子之求流乳母尔行益物乎母... 子の

浦觸而の約ハ備ハけテトの夫ハ相夫礼もいハカ可例西袖叫又卷者

過西憲也亂今可聞或は...

各寺師己ガ...

その... 卯... 上...

各寺師... 上の...

ついで友のりひのり
ハミ六のちのあし。
○累々言の漏れ
次の言はあすの言に
後の言はあすの言に
て一解ちしとす
累々言の漏れ
る言はあすの言に
不。
○後撰集よかのか
ごうちしとす
る言はあすの言に

人死ニニ為良思ス妹爾コト意ニ日異コト羸ニ沼人ニ丹不ニ所知レ

夕々タタ吾立待ニ爾若クモ雲ニ

君不レ来益者ニ應ル幸ニ

苦シ

生代尔イハレ意云物乎ニ相不見者ニ意中ニ爾毛ニ吾曾ニ苦寸ニ

念管座者ラレ苦毛ニ夜于玉之夜ニ爾至者ニ吾社湯龜ニ

我ニ也ニ人ニ

清庭燎而念コト打虚蟬之人ニ目乎ニ繁妹爾不相鴨ニ

不相念レ公者ニ雖座肩ニ意丹ニ吾者衣ニ意君之光儀ニ

味澤相ニ解レ目者非不飽携ニ不問事毛ニ苦勞有來ニ

璞之年緒ニ永何時ニ左右ニ鹿我意得居ニ壽不知而ニ

今者吾者ニ指南與我兄ニ意為者ニ一夜一日毛安毛無ニ

白細布之袖折反ニ意者香妹之容儀ニ乃夢二四三湯ニ

流ニ

人言乎ニ繁三毛人髮三ニ

我兄子乎ニ目者雖見相因ニ

毛無ニ

○後撰集よかのか
ごうちしとす
る言はあすの言に

○後撰集よかのか
ごうちしとす
る言はあすの言に

憲云者

我こそ憲の言ひ、薄事有、夕、脱上の言云者、耳よ、

雖然我者不忘憲者死十方。

中々二死者安六出日之入別不知吾四久流四毛

念八流跡狀毛我者今者無。上、思遺為便乃田時毛吾者無、

居為便乃田時毛今者無、妹二不相而年之經行者。

者。

吾兄子尔憲跡二四有四小兒之夜哭乎為乍宿不勝苦

者。上の卷の十一枚、言、

我命乎。今、今、長欲家口偽乎好為人乎執許乎

○盗人乃道、

玉梓之使、君之使乎待之夜乃名凝其今毛不宿夜乃大

寸。上、

玉梓之道尔行相而外目耳毛見者吉子乎何時鹿將待

吾得人財、

念西餘西鹿齒為便乎無美吾者五十日乎寸應忌鬼尾

上の卷、

思尔之餘尔志可婆門尔出氏吾反側乎人見監可毛

右の二寸の物、

其、

今本妻と心鬱悒事許耳のまうあまぎ
吉為吾兄相
明日者其門將去出而見與憲有容儀數知兼
有時谷吾他心鬱悒何れ故も思ひ入るる
吾妹子之夜戸出乃光儀見之從情空成地者雖踐
海石榴市之
立平之結紐乎解

明日者其門將去出而見與憲有容儀數知兼

得田價妻今本妻と心鬱悒事許耳のまうあまぎ
吉為吾兄相

有時谷吾他心鬱悒何れ故も思ひ入るる

吾妹子之夜戸出乃光儀見之從情空成地者雖踐

卷惜毛

海石榴市之
立平之結紐乎解

吾齡之衰去者白細布之袖乃狎尔思君乎羅其念

從今者不相跡為也白妙之我衣袖之干時毛奈吉

憲君吾哭涕白妙袖兼所漬為便母奈之

夢可登言情性今本妻と月數多二千西君之事之通者

今本妻と月數多二千西君之事之通者

今本妻と月數多二千西君之事之通者

今本妻と月數多二千西君之事之通者

今本妻と月數多二千西君之事之通者

今本妻と月數多二千西君之事之通者

今本妻と月數多二千西君之事之通者

今本妻と月數多二千西君之事之通者

今本妻と月數多二千西君之事之通者

今本妻と月數多二千西君之事之通者

今本妻と月數多二千西君之事之通者

今本妻と月數多二千西君之事之通者

今本妻と月數多二千西君之事之通者

今本妻と月數多二千西君之事之通者

或本哥云八百多直不相

未玉之。年月兼而烏玉乃。夢爾所見。君之容儀者。

從今者。雖應妹爾將相哉。母床邊不離。夢所見乞。

人見而言。害目不為。夢谷不止見乞。我應將

息。

現者言。絕有。夢谷嗣而所見乞。

直相左右二。

虛蟬之。宇都思情毛。吾者無妹乎不相見而年

之經去者。

虛蟬之上。常辭登。雖念。繼而之聞者。心慰焉。

得らぬ所のなきあはれと思はし進んたはなすまはなす
まはなすまはなすまはなすまはなすまはなすまはなすまはなす

白細之。袖不卷而宿。鳥玉之。今夜者早毛。明者將開

白細之。手本寬久。人之宿。味宿者不寢哉。應將渡

如是耳。在家流君乎。衣尔有者。下毛將著跡。吾念有家留。

け所寄物陣思て標まはなすまはなすまはなす

衣裏尔為者。吾將強八方。君之不

かきまはなすまはなすまはなすまはなすまはなすまはなす

衣裏尔為者。吾將強八方。君之不

衣裏尔為者。吾將強八方。君之不

義解、椽、椽木、実、
之、和名抄、椽、椽木、椽、
実也、この田舎人の、
か、か、か、か、か、か、
か、か、か、か、か、か、

言下紐之
言と吾と通
所解日有米也
言下紐之
言と吾と通
所解日有米也

言下紐之。言と吾と通。所解日有米也。言下紐之。言と吾と通。所解日有米也。

紫帶之結毛

紫帶之結毛。紫の帯の結び毛。解毛不見。解毛不見。

本名也妹尔。憲度南。

本名也妹尔。憲度南。高麗錦。高麗の錦。紐之結毛。紐の結び毛。

高麗錦。高麗の錦。紐之結毛。紐の結び毛。解不放齋而待杼。解不放齋而待杼。驗無可聞。驗無可聞。

紫我下紐乃。色尔不出。意可毛将度相。紫我下紐乃。色尔不出。意可毛将度相。

因乎無見。

何故可不思将有紐緒之心尔。何故可不思将有紐緒之心尔。入而憲布物乎。入而憲布物乎。

真十鏡。見座吾背子。吾形見将持辰尔。真十鏡。見座吾背子。吾形見将持辰尔。

真十鏡。見座吾背子。吾形見将持辰尔。真十鏡。見座吾背子。吾形見将持辰尔。

真十鏡。見座吾背子。吾形見将持辰尔。真十鏡。見座吾背子。吾形見将持辰尔。

命對。吾憲止。命對。吾憲止。

命對。吾憲止。命對。吾憲止。

りく。

犬馬鏡冠見不飽妹爾不相而月之經去者生友名師。

ハフリラガイハフミモロノ祝部等之齋三諸乃犬馬鏡上ハカケテヌユ懸所偲今本懸而今本懸而

相人每サツノ人ナリト云フ男ナレバ...

針者有杼妹之無者將著哉跡吾乎令煩絕紐之緒ワヲオチエセテタルヒモノヲ後

高麗劍冠己之景迹故外耳見乍哉君乎意渡奈牟自ハ...

高麗劍冠己之景迹故外耳見乍哉君乎意渡奈牟自ハ...

ウツトモ思ハル...

劔太刀冠名之惜毛吾者無比来之間意之繁尔。

梓弓冠末乃多頭吉波雖不知今本末者師不知雖然今本末者師不知雖然

真坂者君尔緣西物乎真佐加ハ真其際真佐加ハ真其際

梓弓冠引見縱見思見而既心齒因爾思物乎左ノ今文ハ何左ノ今文ハ何

引而不縱丈夫哉憲云物乎忍不得牟鬼鬼

丈夫後意云々

梓弓冠末中一伏三起不通有之是もはたえ引見縱見思見是もはたえ引見縱見思見

古事云梓弓末乃多頭吉波雖不知心古君亦因之物乎云々

よわしいとてさす
りちり人のんや
すしつんとあぬ
ひさかたのあま
のこころとつら
あまのこころと
一皮記の後は伏
的をよくとる
又起てまると
よきと起て入
るなす一伏三起と
りす。

言の夫もさす一伏三起とてさす射のつらさ下と様もさす
扱うけんやゆくもさすつらさ下と様もさす今昔の語りもさす
さすしつんとあぬひさかたのあまのこころとつらあまのこころと
すの射んつらさ下と様もさすあまのこころとつらあまのこころと
且伏すも起すもさすさすさすさすさすさすさすさすさすさす
さすも男中さすさすさすさすさすさすさすさすさすさすさす
嘆羽将息。

今更何塵将念。ホト男中さすさすさすさす 梓弓引見縦見縁西鬼
乎。

嫉嬌等之續麻之多田利打麻懸。多利公義解は線柱集解は

柱一つまさる行をいひたし和名抄は 績時無二意度鴨。上巻は
絡塚とあり打麻は美麻のりさすは符考なり
昔乎笠尔縫将著日乎待也。
年曾經去來さすさすさす

垂乳根之。母我養蚕乃眉隱。まゆの隠り 馬聲蜂音。上巻は

石花。和名抄有蹄子。勢良似犬蹄而附石生者也。兼名
苑注云石花二三月皆紫舒花附石而生故以名之 蜘蛛荒鹿異母二不相而。

玉手次不懸者辛苦懸垂者。相一のむと纏ふは玉手
玉手は續手 見卷之欲寸君可毛。

紫糸色之纒。冠辞考す玉かぎのよみはいつも玉の
緒をほひよは像のつぎ花やうもさす 花ハ香尔。花ハ美と
ハ香ハ良介技とるりのハ様とるハ 今日見人爾後將意鴨。

玉纒不懸時無意友何如妹甬相時毛名寸。
相因之出来左右者豊薦。上巻
重編數夢西將見

古今其の序も
まのやうさすま
はやらと延てり
押さるる推言は
はあさばば様の
音とさすら

武烈天皇紀の經歴
今本紀の經歴
今本紀の經歴
今本紀の經歴

或本哥曰湊入不蘆
別小船障多君尔不
相而半曾經來
上上上上上上上
田禱の福苗は交れ

白香付ミラガツク。拜木綿者ユフ。花疑ハナカモ。今本今本。事社者コトコジ。事事。何時之真坂イツツノマサカ。毛モ。本ハ板と枝と候。常不所忘ツヨクモウシラズ。妹之將待イモメノマシマエ。夜曾深去ヨルヲカク。

石上振高橋イソノウラハタカハシ。大和國山辺郡振神社の流の川ハ岸原多ク是ハ後セリハ言ス。高々尔タカタカニ。列紀列紀。妹之將待イモメノマシマエ。夜曾深去ヨルヲカク。

湊入之輩別小船障多ミナトノヒトトビテフネノシヅメ。今來吾乎イマキミニ。不通跡念莫ツトヒナシノオモヒナシ。上上。水乎多ミヅハタカシ。上尔種時ウヘニタカシ。比要乎多ヒトヨクハタカシ。

擇擢之我等曾ヒラケルニハタカシ。夜獨ヨルニヒト。宿宿。一人宿ヒトノヤド。靈合者レイガフモノ。相宿物乎アヒナシモノナラバ。

春日野尔照有暮日之カスガノノリテルハヨクニ。外耳君乎相見而ソトミミノキミニアヒナシ。今曾イマニハ。悔すイデサシム。

足日木乃從山出流タリヒノキノリトヨリノミツノリ。月待登人尔波言而ツキノマシメタリトヨリノミツノリ。君待吾乎キミノマシメタリトヨリノミツノリ。

母之守ハハノマシ。小山田乃鹿猪田禁如コヤマノカシノイノシ。母之守ハハノマシ。母之守ハハノマシ。母之守ハハノマシ。

吾乎の平助ミヤノヘラノタケノサト。上上。

田禱の福苗は交れ

因毛有額コシモアラヌカの妹が同じ人よすがもいふで妹之目妹の目

乎將見。

登能雲入トノグモリノ棚曇を言使のよ雨零河之アメスガハノ左射礼浪サガ

振川の浪振川の浪暫仁ササニ落小雨ササニ置而吾不念國置而吾不念國思思波波越安越安

間無毛君者所念鴨間無毛君者所念鴨

吾妹兒哉安乎忘為莫ワギモコヤアヲワスラスナノ良須石上袖振河之石上袖振河之

神山カミヤノ之ノ山下ヤマノ變逝水之タビシタミ水尾不絶者ミヅオノ後吾妻ノチモウメ

尾尾

後世人袖振山後世人袖振山

如神カミノ如カミノ所聞キコユル龍之リウノ白浪之オモヒルキミガ面知君之オモヒルキミガ

通通不不所見所見比日比日

山河之カミノ瀧尔益流カミノ意為登曾カミノ

甬来ナリ無間念者無間念者

足檜木之タラシキ山河水之カミノ音不出音不出

人人之子ノチ故ノチ

高瀬尔有コセナル

能登瀬乃河之能登瀬乃河之後將合後將合

妬ハ廣韻諸書音
構説文偶也家傳
遇也柔遇剛也一曰
好也

高瀬尔有コセナル 能登瀬乃河之能登瀬乃河之 後將合後將合

と能知く事を結
トイふを例なり。妹者吾者。今爾不有十方。

大和物語よ
例の沖湯に内
つかりし

浣衣アラヒキヌ。衣一本を用。トリカヒカハノ。穢し衣を浣る。今ハ不有得。取替河之ヨリハ取替といひ。河余杼能不通牟心ヨドノ。ヨドナム。思

兼都母。

班鳩之因可乃池之イカルガノ。ヨルカノ。イケノ。平群郡。宜毛ヨシモ。君乎不言者念

衣吾為流。

隱沼之コモリヌ。今本隱沼と云こりぬ。堤は上ハ水の通ひ。下從者將シタユハ

意ム。記仁徳。許安理豆能志多用波南都都ヨシタ。由致婆多賀都麻ヨシタ。垣安乃池之堤之隱沼乃去方乎不知舍入

△本ま市母者迷惑ももろくハ堤ハ堤ニシテ多竹あり。市白久人之可知歎

為米也母。

去方無三隱有小沼乃下思尔ユクヘナニシコモレルヲヌノシタモヒニ。吾曾物念頃者之

間。

隱沼乃下從憲餘白浪之灼然出カクシ

人之可知。

妹目乎見卷欲江之ホリエ。小浪敷而憲乍

有跡告乞コソ。

石走イシタリ。垂水之水能ミヅノ。早敷八師ハニキヤシ。君爾憲良久

吾情柄。

考ふはたさるわ今敷
樹が集り依ても
加つて本集が
翁のまゝ市白
久の著のまゝおも
てより意は人々
ん

君者不来吾者故無ニヒナシ。立浪之數和備思重波を日本紀も集

君者不来君は来らず。吾者故無我が故に無。立浪之數和備思立浪の數和備思

淡海之海邊多波人知與浪淡海の海邊多波人知與浪。君乎置者知人毛無君乎置者知人毛無

大海之底乎深目而結篆之大海之底乎深目而結篆之。妹心者疑毛無妹心者疑毛無

貞能納尔貞能納尔。依流白浪無間思乎如何依流白浪無間思乎如何。妹雨難相妹雨難相

念出而為便無時者天雲之與香裳不知念出而為便無時者天雲之與香裳不知。志乍曾居志乍曾居

天雲乃絕多比安心有者吾乎莫憑天雲乃絕多比安心有者吾乎莫憑。待者苦毛待者苦毛

君之當見乍母將居伊駒山君之當見乍母將居伊駒山。雲莫蒙雲莫蒙

中々二如何知兼吾山尔中々二如何知兼吾山尔。燒流火氣能外燒流火氣能外

見申尾見申尾。靈寸春吾山之於尔靈寸春吾山之於尔。立霞雖立雖居君之隨意立霞雖立雖居君之隨意

君之當見乍母將居伊駒山君之當見乍母將居伊駒山。雲莫蒙雲莫蒙

中々二如何知兼吾山尔中々二如何知兼吾山尔。燒流火氣能外燒流火氣能外

見申尾見申尾。靈寸春吾山之於尔靈寸春吾山之於尔。立霞雖立雖居君之隨意立霞雖立雖居君之隨意

君之當見乍母將居伊駒山君之當見乍母將居伊駒山。雲莫蒙雲莫蒙

中々二如何知兼吾山尔中々二如何知兼吾山尔。燒流火氣能外燒流火氣能外

見申尾見申尾。靈寸春吾山之於尔靈寸春吾山之於尔。立霞雖立雖居君之隨意立霞雖立雖居君之隨意

卷三長舟之妹水邊而者不可言之因妹立謂緣君及哥云公之隨意といひけけの

大海之底乎深目而結篆之大海之底乎深目而結篆之。妹心者疑毛無妹心者疑毛無

貞能納尔貞能納尔。依流白浪無間思乎如何依流白浪無間思乎如何。妹雨難相妹雨難相

念出而為便無時者天雲之與香裳不知念出而為便無時者天雲之與香裳不知。志乍曾居志乍曾居

天雲乃絕多比安心有者吾乎莫憑天雲乃絕多比安心有者吾乎莫憑。待者苦毛待者苦毛

君之當見乍母將居伊駒山君之當見乍母將居伊駒山。雲莫蒙雲莫蒙

中々二如何知兼吾山尔中々二如何知兼吾山尔。燒流火氣能外燒流火氣能外

見申尾見申尾。靈寸春吾山之於尔靈寸春吾山之於尔。立霞雖立雖居君之隨意立霞雖立雖居君之隨意

君之當見乍母將居伊駒山君之當見乍母將居伊駒山。雲莫蒙雲莫蒙

中々二如何知兼吾山尔中々二如何知兼吾山尔。燒流火氣能外燒流火氣能外

見申尾見申尾。靈寸春吾山之於尔靈寸春吾山之於尔。立霞雖立雖居君之隨意立霞雖立雖居君之隨意

君之當見乍母將居伊駒山君之當見乍母將居伊駒山。雲莫蒙雲莫蒙

中々二如何知兼吾山尔中々二如何知兼吾山尔。燒流火氣能外燒流火氣能外

たたまきいりし符祥
よあしすきのうら
いしと符祥きよ

うん又い三の勾よりわりの... 枕上の二首もあはれ... 此の... 同士の再戦... 君心を忘不得毛。

待君常庭耳居者。打靡。吾黑髮尔。霜曾置尔家類。

上の末ふ待 不得而内者

注。或本哥尾句云 白細之吾衣手は露 曾置尔家流云云

不入白細布之吾袖尔。露者置尔靴下。心均一と云ふこと云ふ二所も載りて

朝霜乃可消耳也。時無二

非時無時也。月日をかくての時

思将度

月日をかくての時

氣之緒雨為而。

左佐浪之波。越安暫仁

おびやうと云ふこと云ふ二所も載りて

落小雨

おびやうと云ふこと云ふ二所も載りて

神左備而。君心者忘不得毛。

古びく久き

巖尔生松根之

おびやうと云ふこと云ふ二所も載りて

間文置而吾不念國。

君心者忘不得毛。

御獵為雁羽之

同稱場と

小野之標柴之

おびやうと云ふこと云ふ二所も載りて

奈礼波不

益意社益。

櫻麻之

上まよ

麻原乃下草早生者

おびやうと云ふこと云ふ二所も載りて

本のニカハ上の末よ

妹之下紐。不解有申尾。

おびやうと云ふこと云ふ二所も載りて

春日野尔。浅茅標結

浅茅ハ秋の末よ紅葉は深

念人者。彌遠長雨

おびやうと云ふこと云ふ二所も載りて

断米也登吾

△或本奇云吾念人
乎將見因毛我母

足檜之山管根乃^{子美}懃吾波曾憲流君之光儀乎。

垣津旗開澤生^出管根之絶跡也君之^ガ。

かづりいりいりいり
かづりいりいりいり
かづりいりいりいり

ど水の管根を根といふべし別考湖核延子管不竊隠てふとてふ外はなきは核
延も頼りいりいりいりいりいり又絶とつくこと^圍是の岩根をいりいり管根といりハ
かづりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいり
まづいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいり
ばいり管根も山管根もいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいり
さうもいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいりいり
者。

足檜木之山管根之懃不止念者於妹將相可聞。

相不念有物乎鴨管根乃懃懃吾念有良武。

山管之不止而公乎念可母吾心神之^圍頃者名寸。

妹門去過不得而草結風吹解勿又將顧^{一云直相麻呂尔}。

淺茅原茅生丹足踏意具美^{淺茅ハ茅の類クハ踏足の痛むカヤル}。

吾念兒等之^{一云}家當見津。

内日刺^刺宮庭有跡鴨頭草乃移情吾思名國^{宮中にてハ}。

百尔千尔人者雖言月草之移情吾將持八方。

萱草吾紐尔著^{ツク}時常無念度者生跡文奈思。

思。

思。

或説五雜俎有
醉草亦有却睡草
有醉草亦有醒醉
草

鬼
或本哥曰將來知
志君矣志將待又見
柿本朝臣人乃呂哥
集然落句少異耳

三吉野大君のまは
仲のまは
三吉野のまは
△二云石葛令蔓之
有者

五更之目不醉草跡この目ざかり草の跡を尋て
此乎谷見乍座而吾止偲為。
菅草垣毛繁森雖殖有鬼之志許草
猶憲尔家利。

菅草垣毛繁森雖殖有鬼之志許草

猶憲尔家利。

淺茅原小野尔標結空言毛将相令聞。

憲之名種爾。

皆人之笠尔縫云。

有間管在而後爾毛相等

曾念。

三吉野之蜻乃小野爾刈草之念亂而宿夜四曾多。

妹所服今本妹待跡三笠乃山之

山菅之不止八将意命不死者。

谷迫峯邊延有玉葛今本妹待跡令蔓之有者年二不

來友。

水莖之崗乃田葛葉緒吹變面知兒等之。

不見比鴨。

住吉之敷津之浦乃名告藻之名者告而之乎不相毛恠。

ステイニエノシキ 住吉之敷津之浦乃名告藻之名者告而之乎不相毛恠。

三佐吳集荒磯尔生流勿謂藻乃名者令告父母者知

トモ 今本吉名者告而之乎不相毛恠。今本吉名者告而之乎不相毛恠。

トモ 今本吉名者告而之乎不相毛恠。今本吉名者告而之乎不相毛恠。

浪之共靡玉藻乃片念爾吾念人之言乃繁家口。

海若之奥津玉藻之靡将寝早來座君待者苦毛。

海若之奥尔生有繩乘乃

オハナルナハリノ 後藤乃のるも抱ぬと云へん。故に云々。

玉緒乎片緒尔搓而緒乎弱弥

カタテニヨリテ 玉緒乎片緒尔搓而緒乎弱弥。玉緒乎片緒尔搓而緒乎弱弥。

乱时尔

目八方。

君尔不相久成宿玉緒之長命之惜雲無

意事益今者玉緒之絶而乱而可死所念

海處女潜取云忘目代二毛不忘

チフ 海處女潜取云忘目代二毛不忘。海處女潜取云忘目代二毛不忘。

者。

是と圍赤入の事
て我の湯わ
赤入の天の
初めちへて時
らにいとまも
の。

名昔といふは女の
名男に昔といふ男
の名と親に昔とい
つゝは女と存てか
り。

朝影尔吾身者成奴玉靖ワカキロモノ髮髻所見而往之兒故爾コト

引又人万里あきまゝをよむ玉子のすゝめ
つゝえいとうしひもてきけいひく

中々尔人跡不在者ヒト、アラズ園園賛酒奇中々人跡不有者酒壺尔成マデ

中々いせ地味よき
まきまきいひいふ
まきまきいひいふ
まきまきいひいふ

桑子尔毛ウシ唯唯乃山尔ウシ間無吾背子吾意者ウシ

人つらみの緒がうらぐらう
うらぐらうとせんりやう成益物乎玉之緒許

真管吉ヨシ宗我乃河原尔神名式大和國高市郡宗我坐宗我部古神社
ついで今も宗我部の西小五十町がかり宗我村

鳴千鳥間無吾背子吾意者ウシ

舊衣ウシ著ウシ樞乃山尔ウシ鳴鳥之間無時無吾意良苦者

遠津人ウシ獵道之池尔姓氏録雄略天皇御世献如里乃耶仍賜姓輕部君
見え集申に狂乃路とくめんとて若回所

住鳥之立毛居毛君乎之曾念

葦邊往鴨之羽音之聲耳聞管本名意渡鴨

鴨尚毛己之妻共求食為而所遺間爾意云物乎

白檀ハクタン斐太乃細江之音城部より又布部より斐太て村今も
江のふかりの天沼ももつえんがいは海方

管鳥乃ウシ妹爾意哉寢宿金鶴コヘカモ
あふなぞと

思ふすゝいひ
上りのあり

小竹之上尔来居而鳴鳥ウシ目乎安見人妻故

尔吾意二来ウシ

物念常不宿起有且開者モ
イナス オキタルアサケニハ
ついで今も宗我部の西小五十町がかり宗我村

和備

故と姑と偶と
上りのあり

或後見又か
いひいひ

或後見又か
いひいひ

故と姑と偶と
上りのあり

久敷の遠に...

久敷の遠に... 拒措越尔...

氏鳴成鶏左倍

朝鳥早勿鳴吾背子之旦開之容儀見者悲毛

拒措越尔

馬をよわ... 麦咋駒乃雖言... 猶慮久思不勝鳥

左檜隈

檜隈河尔

駐馬馬尔水令飲

吾外将見

於能礼故

駢馬之

面高久駄尔乘而應来哉

紫草乎草跡別々

伏鹿之野者異為而

鹿之野者異為而

○...

伏見... 天下一統の

今主人八世様村... 都波... 社... 八...

官の八神の... 青淵... 八...

心者同... 魂ハ一方ハ...

不想乎想常云者真鳥住... 卯名手乃杜之神思将御知

泰三不念乎... 卯名手杜...

卯名手大神... 海石榴市... 紫者灰指物曾... 八十街尔相兒哉誰... 之... 皇紀...

△今本に同答すべし標...

古市... 万神... 天... 新... 武...

足千根乃母之召名乎... 不相关将有玉梓之使乎谷毛待八金手六... 将相者千遍雖念蟻通... 人眼乎多意乍衣

相者無甬。

極而吾毛相登。思友人之言。社繁君尔有。

氣緒尔言氣築之。妹尚乎。

人妻有跡。聞者悲毛。

我故尔痛勿和備。曾後遂不相登。要之言毛不有甬。

他事...

門立而。戶者雖闔。盜人之穿穴從入而所

見氣牟。今夕彈速初夜從。緩解我妹。

從明日者。意乍將在。今夕彈速初夜從。緩解我妹。

今更將寢哉。我背子。荒田麻之。全夜毛不落。

夢所見欲。出乍曾見之雨零。

吾勢子之。使乎待跡。笠不著。

雨。無心。雨尔毛有鹿。人目守。乏妹爾。今日谷將相乎。

ハ乎と

無心。雨尔毛有鹿。人目守。乏妹爾。今日谷將相乎。

同答...

ハ乎と

ハ乎と

宇鏡三閨

○金とりの初...

ハ乎と

直獨宿^{タカ}抒宿^{チカチ}不得而白細袖乎笠^ツ雨著^ツ沾^ツ乍^ツ曾來^ツ。

雨毛零^{フリヨモフケ}夜毛更深利^リ。今更君^{イマ}將^ハ行^ヤ哉^ヤ。

紐解^{トキニケナ}設名^{のまひ}。

久堅乃雨零日乎。我門雨

葦笠不蒙而來有人哉誰。

纏向之痛足乃山雨雲居乍雨者雖零所沾乍曾來。

△此所ノ羈旅發思テノ標モトセテ。

△コトヨク人ハ本名鳥鷲トシテ...

月易而君乎婆見登念鴨。日毛不易為而意之。

重^シ。男のなき様...

莫去跡^{ナキト}變毛^{カヘリモ}來^ク哉常^{ヤト}。顧^カ爾^ニ。雖往^{ユチ}不^ハ歸^ド。

道之長手矣。願^ナ爾^ハ...

去家而妹乎念出灼然人之應知歎將為鴨。

里離遠有莫國草枕旅登之思者尚意來。

サトサカリトホカラナクニ。里離遠有莫國草枕旅登之思者尚意來。

近有者名耳毛聞而名種目津今夜從憲乃益益南

チカカラバ
ノミ
イヤニヤリナム
トホカレバ

客在而憲者辛苦何時毛京行而君之目乎將見

カミリアリテ
レ
トホカレバ
トホカレバ

遠有者光儀者不見如常妹之咲者面影為而

年毛不歷反來嘗跡朝影尔將待妹之面影

所見

トホカレバ
トホカレバ
トホカレバ

玉梓之今祥道兩出立別來之日從于念忘時無

波之寸八師志賀在憲尔毛有之鴨

君所遺而憲敷念者

草枕客之悲有苗尔

而後將憲可聞

妹乎相見

トホカレバ
トホカレバ

國遠直不相

如是將憲物跡知者吾妹兒爾言問麻思乎今之悔毛

カクコヒム
セシ
カクコヒム
セシ

妹をいふは... 〇言向は...
妹をいふは... 〇言向は...

客夜之タビヨノ 久成者サニツラフ 左丹頰合サニツラフ 紐開ヒモキ
客夜之... 久成者... 左丹頰合... 紐開...

不離サケズ 意流比日シメテ
不離... 意流比日...

吾妹兒之シメテ 阿乎シメテ 偲良志シメテ 草枕シメテ 旅之シメテ 九寢爾シメテ 下紐解シメテ
吾妹兒之... 阿乎... 偲良志... 草枕... 旅之... 九寢爾... 下紐解...

草枕シメテ 旅之シメテ 衣紐解シメテ 所念鴨シメテ 家之妹シメテ 此年比者シメテ
草枕... 旅之... 衣紐解... 所念鴨... 家之妹... 此年比者...

草枕シメテ 客之シメテ 紐解シメテ 家之妹志シメテ 吾乎シメテ 待不得而嘆シメテ
草枕... 客之... 紐解... 家之妹志... 吾乎... 待不得而嘆...

良霜

玉劍シメテ 卷寢志シメテ 妹乎シメテ 月毛不經シメテ 置而八將越シメテ
玉劍... 卷寢志... 妹乎... 月毛不經... 置而八將越...

此山岫シメテ 岫ハ山穴シメテ 乃シメテ 具奇我言藝志シメテ
此山岫... 岫ハ山穴... 乃... 具奇我言藝志...

和名抄... 陸詞... 山穴似袖...
和名抄... 陸詞... 山穴似袖...

ハ山の尾の多和... 越...
ハ山の尾の多和... 越...

梓シメテ 末者不知シメテ 抒愛美君シメテ 尔副而シメテ 山道越来シメテ
梓... 末者不知... 抒愛美君... 尔副而... 山道越来...

奴

霞立シメテ 長春日乎シメテ 奥香無シメテ 不知シメテ
霞立... 長春日乎... 奥香無... 不知...

山道乎シメテ 意乍可将来シメテ
山道乎... 意乍可将来...

外耳シメテ 君乎相見而シメテ 水綿牒シメテ 手向乃山乎シメテ
外耳... 君乎相見而... 水綿牒... 手向乃山乎...

明日香越将シメテ
明日香越将...

玉勝間シメテ 安倍鳥山シメテ 暮露尔シメテ 旅宿得為也シメテ
玉勝間... 安倍鳥山... 暮露尔... 旅宿得為也...

玉勝間シメテ 安倍鳥山シメテ 暮露尔シメテ 旅宿得為也シメテ
玉勝間... 安倍鳥山... 暮露尔... 旅宿得為也...

長此夜乎。

三雪零

越乃大山

過而何日可我里乎將見

乞吾駒早去欲

紀道入至真土山將待妹乎去而速見牟

惡木山

木末悲明日從者靡有社

乞願妹之當將見

上よ人万名の妹が門えん。

鈴鹿河

八十瀬渡而誰故加夜越尔將

越妻毛不在君

男の妹をさかして妻の身

吾妹兒尔又毛相海之

安河

安寝毛不宿

爾憲渡鴨

二句とつけ念せしむるは...

客尔有而物乎曾念白浪乃邊毛與毛依者無爾

妹よ在て

湖轉尔滿来塩能彌益二憲者雖刺不所忘鴨

久き妹よ

奥浪邊浪之来依貞浦乃此左太過而後將憲鴨

毛ハ上居

貞浦の園所

地を知らぬものなり
古くは海部といふ
のしるはる世に
まゝにまゝに

他より入るるものなり

衣袖之ノ冠ヲ真若之浦之ノ愛子地ニ

間無時無吾慮ノ鑽ヲ

まゝに格入るるものなり

能登海爾釣為海部之射去火之光爾伊往月待香光

志香乃白水郎乃ノ前ニ釣雨燭有ル

のトニ髻鬢妹乎得見因毛欲得ル

難波方水手出船之遙々別来禮杼忘金津毛

浦回傍能野舟泊

○神代記は能野
諸手船て六出雲

國の能野は能野
倭迹上は真能野
之船て六出雲
志香乃白水郎
其の記伊の能野舟
くは行れ能野

△或本哥云忘可
祿都母

思ふ能の畫の夫... 又能無道... 用するれは...
之は能野といへ... 國に真能野の船... 二首より... 又今本舟附...
船の傍に... 入りあ... 船... 入り... 古く人の...
人... 目頼志文... 懸不思月毛日毛無...
松浦舟乱穿江之... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟...
水尾早撮取間無所念鴨...
射去為海部之撮音湯鞍干... 妹心乘来鴨...
若乃浦尔袖左倍沾而... 忘
貝拾跡妹者不所忘爾

草枕羈西居者。苜薦之擾妹爾。不憲日者無

然海部之磯。爾苜干。名告藻之。名者告手師乎。如何相難

寸。

國遠見。念勿和備。曾風之共。雲之行如。言者將通。

留西人乎。念爾。蛭野。

留西人乎。念爾。蛭野。言野のあきつぎさきいづかきけ野の

居白雲止時無。

△るに悲別哥て入標るもろく寸。

浦毛無去之君故。朝旦。本名。

曾憲。相跡者無行。

白細之君之下紐。吾左倍尔。今日結而名。將相日之為。

白妙之袖之別者。

思亂而赦鶴鴨。

京師邊君者去之乎。孰解可言。紐緒乃結手懈毛。

草枕。客去君乎。人目多。袖不振為而安。萬田悔毛。

白銅鏡。手二取持而。

見常不足。君爾所贈而。

遺又後と

生跡文無

陰夜之クモリヨノ 田時毛不知ニシノ 山越而往座君乎者ヤマコエニイマス

何時將待イツトカタタム

田立名付カタナツク 青垣山之隔者數君乎言不問可聞アヲヒキ

朝霞蒙山乎アサカモリヤマニ

越而去者吾波將憲奈コヒムナ

至于相日スミヒマデニ

足檜乃山者百重雖隱妹者不忘直相左右二ソノヘニ

雲居有海山越而伊往名者吾者將憲名後者相宿友クモリノミ

不欲惠八趾コトニユハヤ 不憲登為杼木綿間山コトニユ

遊布麻夜萬ユフマヤマン

越去之公之所念良國コトニユ

草陰之荒藺之崎乃クサカゲノ 笠島カサジマ

乎見乍可君之山道越良無カ

玉勝間タマシツマ 島熊山之シマクマノ 夕晚獨可君之山ツクシノ

道將越ミチヲコエ

氣緒尔吾念君者鷄鳴東方坂乎キツルニ 今イマ

日可越覽ヒトコエミ

△三坂越良無
或說荒藺崎を武
蔵と云ふは、
之海の邊に於て、
山に上りて、
△二云暮霧長戀
為乍寢不勝可母
れの上の寺信を山
の字のれれ
け—もの

磐城山直越來益磯崎許奴美乃濱爾吾立將待神名式

高郡大洗磯前神社あり和名抄陸奥岩城郡岩城にあり國ハ天
れに在二郡きり守りしむは持て書津人の津妻にりるれは人の河のり
女のつくふ又けりは流し流しをまくとし

春日野乃淺茅之原尔後居而時其友無吾戀良苦者淺茅が

夫のまゝ國よりわいねまの信氣乃わいねまをいしとてうわ天
十二年久述の多入遷りしはのりもがわいねまの信氣乃わいねまの信氣乃
好まげの

住吉乃崖尔向有淡路島何怜登君乎不言日者無あられ

もき國より一君者
也る歎くとつわ

明日從者將行乃河之揚屋の

古語拾遺より天晴
てしむるは
かゝるは
もは
まは
まは

出去者留吾者意乍也將有

海之底與者恐おきしりい奥の奥さわこのまはたのりかた

磯回從水手運往為月者雖經過

飼飯乃浦尔神名式越前國敦賀郡氣比神社記
角鹿の神を氣比大神とやいふ 依流白浪敷

布二妹之容儀者所念香毛男の越へいさ
の妹をわいさ

時風吹飯濱尔或人此後ハ紀伊
まは 出居乍贖命者妹之為社

後よあゝ大海の後まをいしはのまをいしたの妹へゆわりの後ハ龍乃
経まをいしはのまをいしたの妹へゆわりの後ハ龍乃
まをいしはのまをいしたの妹へゆわりの後ハ龍乃

柔田津尔伊豆の熱田 舟乗將為跡聞之苗たんの苗てま
まのまをいしは 如

何毛君之所見不來將有。柔田はより其の日舟乘りしゆへんす
りしはけさの日を漢く付よとそふと
怪しむる。

三沙吳居渚尔居舟之。既し乗居て
風を待たず擲出去者裏意監ト云

毛ハ家ハあな久しうでぬん其あればいふにかがまをそれ
しうていふがまか何れれくとまりしうとけりしむら。後者會宿友

後...
...
...

玉葛無怠行枝山菅乃思亂而意乍將待。

後居而意乍不有者田籠之浦乃海部有申尾珠藻荇々。

上まよ中し二君意者枚浦乃白水郎有申尾玉藻荇管の末は均しれし二君
其の和梅花舟とらけのくきまきまの三圓まけ梅の花まぢちちめとけし圓のま

田籠浦も夫のめり...

筑紫道之荒磯乃玉藻荇鴨君久待不來

今ひさし...
雅さ...
...

倒木の末...
...

荒玉乃年緒永。照月不厭君八明日別南。

久将在君念雨久堅乃清月夜毛闇夜耳見

兼中...
...

...

春日在三笠乃山爾居雲乎出見每君乎之曾念

形見
...

足檜木之片山雉立往牟君雨後而打四雞目八方

...

△今又同答しむるは三機三機の事なり。

玉緒乃冠從心哉冠者より心よりの事なり。

八十梶懸水手出牟船雨後而將居夫の今よりの事なり。

死死の事なり。

八十梶懸島隱去者我々の隠し去る者の事なり。

不所見可聞今五等加比礼布良斯家武麻都良佐欲比賣二似しの事なり。

十月カミナツキの事なり。

鍾礼乃雨丹沾乍哉君之行疑宿可借疑今五の事なり。

の事なり。

十月雨之間毛不置あつちの事なり。

之間宿可借益カミナツキの事なり。

男の事なり。

白妙乃袖之別乎難見為而荒津之濱尔可半佐夫流安良都の事なり。

屋取為鴨先この律への事なり。

の事なり。

草枕羈行君乎荒津左右送来飽不足社こころの事なり。

の事なり。

荒津海吾弊奉將齋早還座面更不為この梶は人の事なりの事なり。

ひよ下をい新と以
より経をええええ
の事なり

上よりい
の事なり

面受せしは事絶へしは國の
任の朝暮使ふはくめはよきまを
早々筑紫乃方乎。出見乍哭耳吾泣痛毛為便無二
よみくまりし人姫か
つんたのきよあま

豊國乃聞之長濱去晚日之昏去者妹食序念
君待夜等者左夜深來
是は松のあまあまはたはつんたのきよあまの
人待まはつんたのきよあまはつんたのきよあま

